

令和 8 年 7 月 宝塚市長記者会見 議事録

日 時 7 月 8 日(水) 15 時 30 分から 16 時 20 分まで 場 所 特別会議室

出席者 (市) 市長、両副市長、教育長、社会教育部長、教育総合支援センター教育支援担当次長
教育研究課係長

出席者 (記者クラブ) 毎日新聞社、産経新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、神戸新聞社、NHK,
共同通信社

発表案件

広島への原爆投下直後における調査団関係資料を発見 広島平和記念資料館へ寄贈
を打診 (教育研究課)

【質疑】

(記者) なぜ宝塚市にあったのかは分からないとのことですが、教育総合センターの中で
発見された状況として、どこで見つかったのでしょうか。

(担当) 本センターの書庫から、古い資料が見つかりました。

(記者) それは、例えば整理をしていたり、移動させたりといった際に見つかったの
でしょうか。

(担当) 古い文書の整理をしている際に見つかりました。

(記者) 時期はいつ頃でしょうか。6 月中旬ということで、先月でしょうか。先月、古い
書庫を整理していた際に見つかったということですね。この複数枚あるものや冊
子を含め、番号で言うと 17 点の資料は、ひとまとめになっていたのでしょうか。
例えば段ボールや箱に入っていたなど、その辺りの状況はいかがでしょうか。

(担当) 記載等はありませんでしたが、ひと塊でまとまっておりました。

(記者) 箱には入っていたということでしょうか。

(担当) 一塊になっていたというだけで、箱には入っておりませんでした。

(記者) 書庫のどこかにまとめて置かれていたということですね。平和記念資料館への寄
贈について今後お話を進められるとのことですが、具体的な時期としては、例え
ば今年の 8 月 6 日までといったことはなさそうでしょうか。

(担当) まだ未定です。

(記者) 資料の中を読んだ限りでは、浅田先生のお名前もそうですが、宝塚という地名が出てくるなど、なぜここにあるのかのヒントになるような記述は全くないのでしょうか。また、これ以外に、例えばこれまで宝塚市で原爆や戦争関係の資料が見つかったことはあるのでしょうか。

(担当) (ヒントになる記述は) ありませんでした。また、過去の資料については把握しておりません。

(記者) 市として保管していた資料が見つかったのは、センターを含めてもこれまでで初めてのことでしょうか。

(担当) 私の記憶の中ではなかったと考えております。

(記者) 今回、寄贈するまでに市民の方へ公開されるなど、何かご予定はありますでしょうか。市民へ情報提供をされるとのことですが、市民が閲覧できたり、どこかで展示されたりするご予定はありますか。

(担当) 現時点では何も予定しておりません。市のホームページや広報誌で写真を掲載するなどの予定も含め、今のところはこの記者発表以外には予定しておりません。

(記者) 平和記念資料館との事前相談において、重要な資料である可能性が高いと言われたとのことですが、具体的にどの資料が重要であるとか、この資料によって新しい事実につながる可能性があるなど、その辺りの評価はいかがでしょうか。

(担当) 最初に紹介させていただいた資料はデータで送っております。当時の調査団の資料であることはほぼ間違いのないという見解です。この3種類については、当時の調査資料で似たようなものや同じものもあるため、当時の資料であることに間違いはないという見解でございます。

(記者) 確定までは現物を見てからということですが。中身的に、今まで分かっていなかったことが判明したなど、何か言えることはありますでしょうか。

(担当) それは全くありませんでした。調査団が派遣されたという事実は歴史的に明らかなので、その関係資料の一部として、新資料としてデータベースにまず登録させてほしいというお話はありました。しかし、その中身については、これから現物を拝見して詳細に把握していくということで聞いております。

(記者) 海軍病院長から大阪警備府の3部長へ引き継いだ一覧表7番の資料は、「浅田博士に」というメモがありますが、誰が書いたかまでは分からないということでしょうか。

(担当) 中身の手書きの部分について、誰が書いたかは分かりません。

(記者) 医学的な調査内容の報告があり、手書きの鉛筆で「浅田博士に」と書かれています。その医学資料が物理学者である浅田先生に渡されていたとみられることから、医学的側面と物理学的側面の両面から、原子爆弾の実相に迫ろうとしていたことがうかがえるということでしょうか。

一覧表の1番と7番について改めて、その貴重なポイントや意義についてお教えいただけますか。

(担当) 極秘と書かれていることやナンバリングがあることで、本来は回収されなければならないものが残っているという点です。

(記者) 浅田先生のもものとみられる手書きのメモがある6番から分かることとはどのようなことでしょうか。

(担当) 8月9日に調査を委嘱されたという記述があり、他にも白血球や土壌の放射能の話もありました。初期の被害調査の中で、原子爆弾であるという結論に至るまでの被害状況や、分析も含めた内容が書かれていると思われます。最後の方には化学式なども書かれております。

(記者) 私の知識で恐縮ですが、8月10日に海軍と陸軍が広島に入り、それまでの記録を突き合わせて原子爆弾だと断定した記憶があります。それより時系列的に前ということでしょうか。

(担当) それはわかりません。

(記者) 浅田先生はご自身で原子爆弾であるかどうかを調べようとしていたということでしょうか。

(担当) 依頼を受けて調査をされています。放射能の調査も実際にされており、こちらの資料にも記されておりました。

(記者) 依頼元ははっきりしているのでしょうか。

(担当) 大阪警備府からです。

(記者) 8月9日に委嘱されたということですね。教育委員会の所管する建物から出てきたということで、教育長にも改めてお伺いいたします。宝塚市で見つかったことに対する率直なご感想をお聞かせください。

(教育長) まず、平和の意味合いが大きい資料が、宝塚市の教育委員会の施設で見つかったことに大変驚いております。そして、これまで教育委員会の施設で眠っていたこの事実が、平和のために広く活用されるべきだと考え、広島の平和記念資料館とやり取りをさせていただきました。宝塚市の子どもたちも広島へ修学旅行に行っております。今後どのように展示されるかは分かりませんが、子どもたちが広

島へ行く前に、宝塚市でも原子爆弾に関する資料が見つかったという事実を知ること、関心を持って資料館を訪れ、意識を高めるために活用されれば大変ありがたい、嬉しく思います。宝塚市の子どもたちだけでなく、日本の子どもたちや世界の多くの方が訪れる施設で活用されることが我々にとってもありがたい、それが我々の役割であると考えております。

(記者) 資料館の方にデータを送って打診されているとのことですが、資料館の担当者から「これはすごい」といった反応を示されたものは、17点の中にありますでしょうか。

(担当) ありません。資料館が把握している量が膨大であり、新資料もたくさん見つかるということです。「現物を見るまでは大騒ぎはしません。まずはいただいてから」というお話でした。

(記者) 資料館の窓口は、どちらの部署になるのでしょうか。

(担当) お電話をして、学芸員の方につないでいただきました。

(記者) 今後の予定ですが、資料の現物は広島に送られるのでしょうか。それとも、広島から来られて確認される形をとるのでしょうか。広島側が見た上で欲しいとなれば、寄贈する形になるのでしょうか。

(担当) 資料は送ります。寄贈については、関係各所へ確認をした上で進めております。

(記者) もし広島側が「資料は十分にあるので宝塚市で保管してください」と言われた場合、宝塚市に戻ってくる形になるのでしょうか。

(教育長) それはないと思います。

広島の方にも多くの資料があり、浅田先生に關係する資料も多いと聞いております。ただ、我々のところで見つかったものの中には手書きのメモがございます。同じ内容のものがあつたとしても、手書きであることの価値はあるのではないかと考えております。資料の一部として全体を裏付けるものに位置づけられるのであれば、広島の方でしっかりと保管いただき、可能であれば展示していただきたいという思いを持っております。その点は今後の話し合いの中で決まっていくと考えております。

(記者) 見つかった状況ですが、書庫の本棚に立てかけられていたということでしょうか。

(担当) はい、まとまって立てかけられておりました。

(記者) 宝塚市と浅田先生との関わりについてですが、お兄様が東灘の住吉にいらっしゃって、芦屋の知り合いの家に避難されたという話もあります。宝塚市に一時的にでも住んでいたというような噂や情報はないのでしょうか。

(担当) 噂や情報はありましたが、いずれも不確かなものだったため、大阪大学のアーカイブなど、関係しそうなところへ片っ端から確認いたしました。つい先日もご返答をいただいたのですが、宝塚市に住居があったという記録は全く出てきませんでした。旧芦屋市や戦後は箕面市にお住まいだったということは公的に確認できましたが、宝塚市に関する記録は一切出てきませんでした。Google 検索等では出てくるかもしれませんが、確かな内容ではありませんでした。

(記者) ちなみに、どのような噂だったのでしょうか。

(担当) ネットで調べると、末成町や雲雀丘に住んでいらっしゃったという情報や、雲雀丘学園の創設当時に関わったのではないかという情報がありました。しかし、雲雀丘学園をはじめ様々なところに確認いたしましたが、全くお名前が出てこず、不確かな情報でした。

(記者) 最後に 17 番の「板塀」についてですが、これは広島へ調査に行かれた際に博士が採集したものと思われる、という認識でよろしいでしょうか。

(担当) おそらくそうだと思います。「広島女子高等学校にて取得」と記入されてはおりますが、詳細な経緯については分かりません。

(記者) この 17 点は、すべて浅田先生が関わっている資料ということでよろしいでしょうか。

(担当) 一式であったということしか分からず、違う方がお持ちになったものなのかどうか、はっきりとは分かりません。

(記者) 資料番号の 1 番は、浅田先生のお名前が載っているのでしょうか。

(担当) お名前が載っているものではありません。浅田先生との関係は分かりません。

(記者) 6 番や 1 番の手書きのメモは、写しではなくメモそのものなのでしょうか。

(担当) 鉛筆書きのメモそのものです。

(記者) 1、2、7 番が当時の冊子とのことですが、これらと同じものは広島平和記念資料館にはないということでしょうか。

(担当) 具体的にどれがないかまでは教えていただいております、分からない状況です。

(記者) 冊子というのは当時の印刷物でしょうか。

(担当) 当時の印刷物です。後ほどご覧いただけます。

(記者) 何故、宝塚市の施設にこの資料が残っていたかや浅田教授と宝塚市との関わり方については正確な記録が残っておらず分からないため、市民や関係者から情報を募りたいということでしょうか。

(担当) はい、その通りです。

(記者) 資料館には、学術的な意義などについて調べていただくことになっているということでしょうか。

(担当) 先方でのその後の扱いについては、丁寧に大切に扱うということで、保管方法や、現物を拝見した上で判断させていただくというところにとどまっております。

(記者) 資料館に送ってからの調査は、結果がどのようなものになるか、結果が出るまでに年単位などの時間がかかるのでしょうか。

(担当) 私どもでは全くわかりかねます。どのような基準で調査や判断がなされるのかについては、広島資料館内でのこととなりますので、私どもは全く存じ上げておりません。

(記者) 浅田先生と宝塚市の接点はないとのことですが、宝塚市の記録において、終戦直後や被爆直後に、例えば医師団や市の職員などが、宝塚市から広島市へ赴いたという記録も存在しないのでしょうか。

(担当) 申し訳ございません。教育委員会側だけではわかりかねますが、教育委員会の記録にはございません。

以上